

幼稚園・保育所ってどんなところ？

教育の根本として、今、幼児教育・保育が注目されています。どのような指導が子どもたちの成長に、より効果的なのか先生たちは考え、導きます。小学校へつながる幼児教育・保育の仕組みを少しのぞいてみましょう。

問い合わせ 市立神興幼稚園 ☎ 42・2107



福津には幼児教育・保育施設が豊富

皆さんは市内に、多くの幼児教育・保育施設があるということをご存知でしょうか。市内には公立および私立の幼稚園と保育所、幼稚園と保育所両方の役割を持つ認定こども園、0歳から2歳までを保育する小規模保育施設がいくつもあります。公立と私立、幼稚園と保育所など、いずれかに偏ることなく、さまざまな種類の施設がある市町村は、県内では珍しい存在です。また、幼児教育・保育にはさまざまな手法があります。市内の施設でも、各園それぞれが特色あふれる幼児教育・保育を展開しています。

そして近年、そのような特色ある施設同士が横のつながりをつくり、情報を共有するようになりました。各園の情報を共有し、特に年長児の育ちについて共通点を整理し、小学校へより効果的に接続していこうという取り組みが行われています。

子どもたちが遊びから学ぶ

幼稚園や保育所などで、子どもたちはたくさん遊びます。ただ遊んでいるだけのように見えますが、子どもたちはその中でたくさん学ぶことができます。上の写真は、子どもたちがお店屋さんごっこをして遊んでいる様子です。店員と客になりきって遊んでいます。遊びを楽しく継続させていくためには、友達と力を合わせたり、役割分担をしたりすることが求められます。また、品物や看板などを準備していく中で、指先の発達を促したり、文字や数字に対する感覚が豊かになったりします。問題が発生したときは、友達と一緒に考えたり、折り合いを付けたりすることも学ぶ機会となります。

遊ぶことで非認知能力が向上

このように、子どもたちは遊びを通して、意欲、思いやり、社会性、自制心、創造力、好奇心、道徳性などを身に付けていきます。これらは、小学校以降

の教科学習で身に付ける、成績などの数値化しやすい「認知能力」に対して、数値化しにくい「非認知能力」と呼ばれます。幼稚園や保育所などでたくさん遊ぶことで「非認知能力」を向上させておくことが、小学校以降での学習に大きな効果をもたらします。

遊びは主体的に。ただやりたい放題ではない

ところで、この「遊び」とは、「幼児の自発的な活動」と幼稚園教育要領に定義されています。誰かにさせられて、受け身的に行うものではなく、子どもたちが自ら意欲的に行ったものが「遊び」なのです。

ただ、単に「非認知能力を向上させないといけない」「子どもたちが主体的に遊ばないといけない」からといって子どもたちにやりたい放題にさせるのはありません。先生たちは、指導の計画に沿って、あたたかみ子どもたちが自らその活動を選択したかのように、準備や援助をしていきます。幼稚園教諭・保育士は専門的知識と経験を生かして、子どもたちの指導に当たっているのです。

遊びの中にある学び

- ◎**店を運営する**
 - ・協力、役割分担をする良さ
 - ・共通の目的を達成する良さ
 - ・相手を思いやる気持ち
- ◎**品物を作る**
 - ・はさみ、のりなどの道具を使う技術の習得
 - ・素材の特徴を知る
- ◎**なりきって遊ぶ**
 - ・言葉を使ってのやり取り
 - ・想像力の広がり
 - ・模倣する力
- ◎**看板・値段・お金**
 - ・文字の読み書きへの興味・関心
 - ・数的理解の芽生え



▲お店屋さんごっこをして遊ぶ子どもたち

小学校への滑らかな「接続」を行う

誰しも環境の変化にはストレスが伴います。特に小学校に入学すると、幼稚園や保育所などでの学び方に違いがあることから、子どもたちの心身に負荷がかかります。この問題を解消するため発足した「福津市保幼小接続推進協議会」を紹介します。

「段差」を乗り越えるべく協議会を設立

幼稚園や保育所などを卒園した子どもたちは、小学校に入学します。これまで「遊び」を通してさまざまなことを学んできた子どもたちの生活は「教科等」を通して学習する生活へと大きく変わります。

この変化への対応がうまくいかなければ、学習や生活に馴染みずいたり、時には不登校や、集団行動が取れない、授業中に座ってられないなどの状態が続く「小1プロブレム」が起これたりすることもあります。子どもたちにとって「段差」とも言えるこの変化、幼稚園・保育所、認定こども園、そして小学校の先生たちが、密接に連携することで、子どもたちが滑

らかにその段差を乗り越えられるよう取り組んできました。

ただ、これまでは市内の各園や各学校単位で情報交換や交流行事を行うにとどまっていた。また、市内にはさまざまな種類の幼児教育・保育施設があり、幼児教育・保育の内容もさまざまであるため、同じ新1年生でもそれまで学んできた内容が異なります。さらに、同じ園から卒園した園児が同じ小学校に進学するわけではないため、近所の小学校とだけ連携を行っているのは偏りが出てしまいます。これらの問題を解消し、福津の子どもたちがより滑らかに「段差」を乗り越え、そして各施設で学んできたことを小学校での学習に存分に発揮できるように発足したのが「福津市保幼小接続推進協議会」です。

スムーズな学びのためカリキュラムを作成

平成31年度に発足したこの協議会では、市内の公立・私立の幼稚園と保育所、認定こども園、そして小学校の代表の先生が一堂に会し、情報交換はもちろん、基底カリキュラムの編成や、先生たちの合同研修会の企画・実施を行っています。

基底カリキュラムとは、協議会が作成する全体の指導計画で、これを元に各園・校で幼稚園や保育所の年長後半から、小学校1年生の5月までの接続期カリキュラムを作成します。また、接続期カリキュラムとは、平成30年の「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」などの他、平成31年の「小学校学習指導要領」の改訂で作成が義務付けられた、小学校での生活を見通したアプローチカリキュラム、幼稚園や保育所での学びを踏まえたスタートカリキュラムのことです。

協議会では、これらの元となる基底カリキュラムを作成することで、特色ある各園の幼児教育・保育の共通点や、ある程度の基準を整理し、そこでの学び

が、スムーズに小学校での学習につながるようになっています。

また、このようなカリキュラムの普及と促進、保育や教育への実践、評価、子どもたちの育ちの共有、幼稚園や保育所と小学校の学び方の違いなどを先生たちが研さんするための合同研修会も行われています。

主に、幼稚園や保育所の年長児の担任の先生と、小学校低学年の担任の先生を対象としたこの研修会では、テーマについての研さんはもちろん、現場の先生同士の生の声が聞けるということ、保育・教育についての熱心な情報交換が行われています。

「連携」から「接続」へ密接につながる保幼小

これまでの交流を中心とした各園・校単位の「連携」から、市全体でのカリキュラムの編成まで行う、より密接なつながりという意味で「接続」という言葉を使用しています。

特色のあるさまざまな幼稚園や保育所などが、その特色を生かしつつ行う、小学校への滑らかな接続。子どもたちのこれらの成長が楽しみです。

教えて!! 幼児教育アドバイザー!!

市には、県に認定され、活動している2人の幼児教育アドバイザーがいます。そのうちの1人で、保幼小接続推進協議会の発足に関わった、神興小学校の大嶋正紹先生に幼児教育アドバイザーの活動や、協議会発足への思いなどを聞きました。

Q1.幼児教育アドバイザーってどんなことをしているのですか？

幼児教育の更なる質の向上を図るための活動を行っています。市内の幼稚園や保育所、認定こども園などの求めに応じて施設を訪問し、教育活動などへのアドバイスを行ったり、課題があれば先生たちと共に考え、その解決に向けた取り組みのサポートをしたりしています。

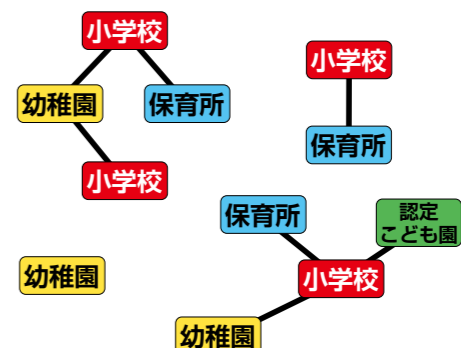
Q2.保幼小接続推進協議会はどんな思いで立ち上げましたか？

子どもたちが主体的に学びに向き合える環境をつくりたいと思い、立ち上げました。幼児たちは遊びを通じた学びから、教科を通じて学ぶ小学校に入学するという大きな環境の変化に直面します。子どもたちがこの変化に対応し、主体的に学びに向き合う環境をつくるために、幼児教育に携わる先生たちが、子どもたちの実態や、教育に求められることを理解し、協力し合うことが必要です。そのような場として保幼小接続推進協議会は大切な役割を担っています。

Q3.今後の福津市の幼児教育の展望は？

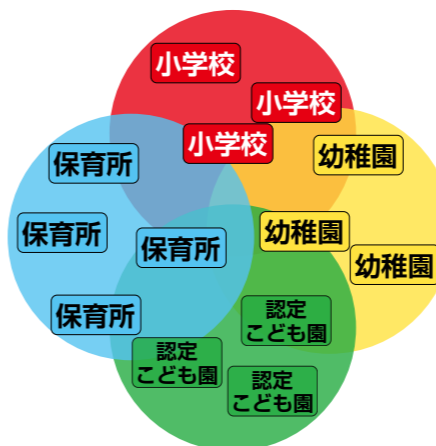
協議会が主催する研修会などに行くと、先生たちの「子どもたちのために協力していこう」という意識の高まりを感じます。この取り組みを通じて、子どもたちの生き生きとした学びが実現すると共に、教育の質が高まっていくと思います。これからも多くの教育施設が手を携え、子どもたちが学ぶことに意義を感じ、自ら学習に取り組める環境がつけられていくことを期待しています。

これまでの市の保幼小接続



園・学校単位で連携や交流などを行ったり、行っていなかったり…

これからの市の保幼小接続



これまでの連携や交流などを大事にしながら、全ての園・学校の代表が一堂に会して協議などを行っていく必要がある

